

課題 4 小型囲いわなによるシカ誘引・捕獲 の向上と普及の推進

～現地状況に対応した設置方法と普及～

(開発期間 27 年度新規)

1 試験開発目的

近年全国的に二ホンジカによる新植地の食害、剥皮被害等の林業被害が深刻化しています。このような中センターでは、平成 23 年度より「二ホンジカ囲いわなに関する研究」他として、わなの形状や捕獲個体の分析を主として試験を実施してきました。

本試験については、捕獲箇所周辺における植生状況等調査や集積した動画等のデータを分析すること等により、誘引手法やトラップの改良など捕獲効率の向上に併せ、民・国が連携して行うシカ捕獲の推進を図るうえでも、更なる試験等の実施や普及モデルの確立が必要であることから、平成 27 年度より新規課題として実施していくこととしています。

2 試験地

四万十森林管理署管内国有林及び高知県高岡郡四万十町内の民有林外

3 これまでの取り組みについて

① シカ誘引状況の季節変動調査

効率的な捕獲に向けて、餌誘引の季節別変動や時間帯別の生態調査を、高知県内東部・中部・西部の 3 カ所においてカメラ撮影により実施しています。

全体としては、夏場は少なく、春と秋から冬場に多くのシカが確認できました。

しかし、標高が高い中部(1200m)においては、冬場も少ない傾向が見られ、標高が比較的低い東部や西部(570m, 660m)との違いが見られました。

時間帯別では、20 時以降から翌朝 6 時頃に最も多くのシカが確認され、地域間の顕著な違いは見られない結果となっています。

② 囲いわな等の開発・改良

わなの開発については、法令上「囲いわな」であれば狩猟期間内に限り、一定の要件を満たせば免許等が不要であり、箱わなの上部を無くし「小型囲いわな」として扱えるよう開発に取り組み、目標として、重量を 120 kg 以下価格を市販品の半分程度組み立て解体が容易の 3 点とし、開発捕獲試験を重ね、目標をクリアしたタイプ 7・8 を実用普及対象としました(写真 1)。

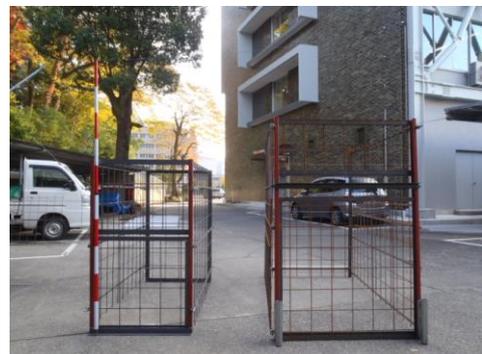


写真 1 タイプ 8 とタイプ 7

<タイプ7の概要>

- ・わなの大きさ・耐久性ともに十分あり、大型のシカも捕獲可能。試験では、体高80cm、体重58kgの雄シカを捕獲（写真2）。
- ・林道端や里山周辺など平坦地であれば設置可能。組立はふたりで10分程度。（組立てた状態で1tトラックの荷台に積載可能。）
- ・重さ102kgと市販の箱わなの2/3程度。
- ・価格は49千円と市販わなの半分程度。



写真2 タイプ7オスシカ捕獲

<タイプ8の概要>

- ・林道端や里山周辺など平坦地であれば設置可能。組立はふたりで5分程度、移動も簡単。
- ・組立状態で軽トラの荷台に積載可能（写真3）。
- ・重さ（58kg）、価格（44千円）と、いずれも市販の箱わなの半分以下。



写真3 タイプ8を軽トラ積載

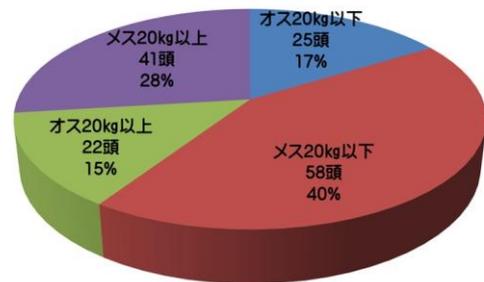
③ 捕獲試験

捕獲したシカの分析としては、236箇所を設置、うち100箇所（174頭）捕獲し、捕獲率は42%となっています。

個体別にみると若い個体（20kg以下）の捕獲が57%と多い傾向にあり、若い個体の場合、警戒心が薄いためと推察されます（図1）。

性別でみるとメスの捕獲が68%と多い傾向にあり、活動範囲がオスに比べ狭く子育てしていることも一因と推察されます。また、メスの捕獲は、個体数減に効果的であると考えています。

図1 捕獲個体数大きさ、性別内訳



※H23～26年センター試験捕獲頭数

④ 普及・支援

民国連携したシカ被害軽減への取り組みとして、国有林のふもとに所在し、シカ被害が著しい集落と連携して捕獲を実施することとし、シカ被害対策に係る検討会の実施及び軽量で組立が簡単な小型囲いわな（タイプ8）を民有林内に住民と共同で設置しました（写真4・5）。なお、地区とのパイプ役として市町村の担当職員や農協の鳥獣対策指導員等、地域の実情に精通している方に加わってもらうことで、円滑に連携した取り組みを進めることが出来ました。

また、囲いわなの設置指導支援を、民間事業体・大学等で実施しています（写真6）。



写真4



- 2 - 写真5



写真6

4 平成 27 年度試験内容

① 捕獲実績箇所周辺における植生状況等の調査

これまでに捕獲試験を実施した箇所周辺における植生や地形等を調査・分析することで、ワナ設置ポイント選定時の目安となるようなデータが取得できないか調査を実施することとしています。

実施箇所については、捕獲に係る条件（捕獲効率等）が異なる箇所を選定します。

調査内容については、他の森林管理局が使用している既存の「シカ影響簡易調査チェックシート」を基本に調査項目を選定します。

【調査項目】

場所情報— 標高、山の向き、周辺環境など

林相情報— 林種（人天別）、樹種、林齢など

周辺植生— 下層植生状況など

シカの痕跡— 周辺の剥皮・枝葉摂食・獣道・糞など



② 捕獲試験

誘引手法やトラップの改良など捕獲率の向上に向け、平成 27 年度も引き続き四万十町内国有林を対象とし、囲いわな等を林道沿いに設置して、試験を行います。

③ 動画データ等の収集・分析

囲いわなと一緒に自動撮影カメラを設置し（写真7）、シカの行動等を動画により収集・分析を行い、捕獲試験を実施することとしています。

具体例としては、

I. 囲いわなからの脱走防止対策

II. スレジカの捕獲に向けた対策

III. 長期間の餌付けによる頭数変化など



写真7



写真8 捕獲したニホンジカ



写真9 餌付け7頭

④ 普及・支援

今後の普及・支援は、高知県四万十町檜生原地区・芳川地区を民国連携シカ対策（仮）モデル地区として、随時フォローアップを行うとともに、ほかの地域への普及手法の設計に取り組むこととしています。

